

～あらすじ～

【第一幕】

舞台は18世紀、イタリアのナポリ。二人の士官フェランドとグリエルモが、老哲学者ドン・アルフォンソと言い争いをしている。フィオルディリージとドラベツラという2人の姉妹が、お互いの恋人について語っている。一方、二人の士官は、彼らの恋人が自分たちを裏切るようなことは決してないと信じているが、アルフォンソは、そんなことはない、「女の心は変わりやすいものだ」と説く。そこで、どちらの言い分が正しいか賭けをすることになった。ここからアルフォンソの策略が始まる。そうして姉妹の所へやって来たアルフォンソは、「あなた方の恋人は戦争へ行く事になった」と嘘をつき、フェランド、グリエルモも別れを告げに2人の前へ現れ、悲しみながら旅立つ芝居をする。

恋人がいなくなって悲しむ姉妹。その上でアルフォンソは、士官二人にひげを付けたり髪型を変装させ、姉妹に別人として紹介し誘惑させようとする。アルフォンソは事前に女中のデスピーナにあらかじめ小遣いを与えておき、協力させる。変装した二人は姉妹に言い寄るが、このときはまだ見向きもされない。

【第二幕】

女中デスピーナが姉妹の部屋で男遊びもいものよと浮気を勧める。すると姉妹は、もし選ぶならこっちの人かしら、と話し始める。デスピーナの言葉に後押しされお互い元の恋人と違う相手が気になりだす。そしてとうとう変装したグリエルモは、フェランドの恋人ドラベツラを口説き落とす。逆にフェランドも、グリエルモの恋人フィオルディリージを口説くことに成功する。フェランドとグリエルモは、恋人の裏切りに激怒するが、アルフォンソになだめられる。“女はみんなこうしたもの”だと。

姉妹は変装した二人と華やかな結婚式が公証人に変装したデスピーナによって執り行われ結婚契約書を交わすが、そこへ戦争に行ったはずの士官二人が帰ってきて、その契約書を見て怒りをみせる。慌てふためく姉妹にフェランドとグリエルモは種明かしをする。

姉妹は許しを請い、士官二人はもう恋人を試すようなことはせずに信じると誓う。アルフォンソは、みんな笑い飛ばしてしまおうと恋人たちをねぎらうのだった。

～作品について～

原題:Così fan tutte

作曲:ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1789～90年)

台本:ロレンツォ・ダ・ポンテ(イタリア語)

初演:1790年1月26日(ウィーンのブルク劇場にて)

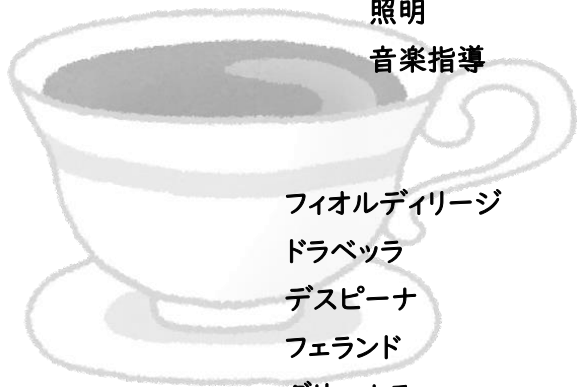
恋人たちが織りなすたわいもない物語のせいか、このオペラ『コジ・ファン・トゥッテ』は、モーツァルトの『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『魔笛』といった他の作品に比べてあまり評価されてこなかったオペラでした。この作品の価値が見直されてきたのは、初演から200年近くたった20世紀後半に入ってからです。

登場人物を見てみると、女声3、男声3の同数、しかもソプラノからバスまでバランスよく配置されています。これらの登場人物が、いろいろな組み合わせで二重唱から六重唱まで披露していきます。モーツァルトが書いた非常に繊細なアンサンブルは、きっと客席で聴く私達の心をとらえることでしょう。



～ CAST & STAFF～

指揮	藤村 匡人
演出	唐谷 裕子(非常勤講師)
ピアノ	宮本 遥花(実習助手)
舞台監督	西川 まゆみ(卒業生)
照明	澤井 淳治(賛助)
音楽指導	福原 寿美枝



Cast

フィオルディリージ	白石 優子(客演)
ドラベツラ	松本 奈々実
デスピーナ	松田 愛花
フェランド	秋本 靖仁(非常勤講師)
グリエルモ	福嶋 勲(非常勤講師)
ドン・アルフォンゾ	藤村 匡人

Special Thanks

《照明》

濱田咲来(二年)

《字幕》

村上瑞月(三年)、筒井星名(四年)

《転換、合唱》

新居明果(三年)、金谷亜美(三年)、高瀬日向(三年)

佐保沙耶(一年)、山田朱音(一年)

《譜めぐり》

黒岩実来(四年)

